

類例 I'm not sure **which** is the correct answer.

どちらが正解なのか、私には定かでありません。

We should investigate **how** this accident happened.

どのようにしてこの事故が発生したのか、調査をしなければなりません。

Do you have any idea (as to) **who** has gotten (主に米) [got (主に英)] the highest marks in the midterm?

誰が中間試験で最高点を取ったのか知っていますか。

I have no idea **why** he decided to quit the club.

彼がなぜ退部することにしたのか、私には見当がつきません。

(not have any idea, have no idea で not know とほぼ同じ意味になる)

Can I ask you **why** you didn't run for the presidency?

なぜ大統領選挙に出馬しなかったのか、お聞きしてもよろしいでしょうか。

Can you tell me **where** the teachers' room is?

職員室がどこにあるのか教えてくれませんか。

I don't know **where** he learned English.

彼がどこで英語を身につけたのか、私には分かりません。

I can't tell **how** much it cost.

それがどれくらいの値段だったのか、私には分かりません。

I wonder **how** they managed to get out of the room.

彼らはどうやってこの部屋から脱出したのだろう。

英語の原理

間接疑問文ではなぜ平叙文の語順になるのか？

疑問文が別の文の中に組み込まれるときに、疑問文としての役割を失ったためと考えればよい。**18**では、文全体は I don't care ... という平叙文である。あくまで間接疑問文の who she is は、文中で目的語となる名詞節の役割をしているのみであり、誰かに何かを尋ねるという働きはもはやない。よって疑問文の語順にする必要はないのだ。

20は、Who are you? という文に do you think が挿入されたものである。このような場合、〈疑問詞 + **do you think** + S + V (平叙文の語順)〉になり、× Who do you think are you? としない。

類例 Who *do you think* is coming to the party?
誰がパーティに来ると思いますか。

Which team *do you think* will win the game?
試合に勝つのはどのチームだと思いますか。

Why *do you think* the plane arrived late?
その便の到着時刻が遅れたのはなぜだと思いますか。

語順に注意



※ think 以外に、believe, expect, hope, imagine, suppose などの動詞を用いることもある。

Who *do you believe* our new homeroom teacher will be?
私たちの新しい担任は誰になると思いますか。

2 否定疑問文

21 “Billy, **can't you do** better in school?” “I'm sorry. I'll study harder for the next exam.” 「〈いら立ちを示して〉ビリー、もう少し成績はよくならないの」「ごめんなさい、次の試験に向けてしっかり勉強します」 566

22 “**Don't you agree** to my proposal?” “Well, I'll think about it.” 567
「〈同意を求めて〉私の提案にご賛同いただけないのですか(賛同してくれますよね)」「ええ、まあ考えてみますよ」

通常の疑問文では「…ですか？」となるところ、「…ではないですか？」のように否定を伴う質問をする疑問文を、**否定疑問文**と呼ぶ。

否定疑問文は、通常の疑問文に比べて様々な話し手の心理が付け加わる。

- 1) 肯定の答えを期待しているのに、そうなっていないことへの〈失望〉や〈いらだち〉を表す。(21)
- 2) 肯定の答えを期待し、「そうですよね」という〈確認〉を表す。(22)

- 1) **Can you do better in school?** が中立的な質問・依頼文であるのに対して、(21)では、ビリーがどうしてよい成績が取れないのだといらだつて、それを求めているという意味合いがある。
- 2) **Do you agree to my proposal?** が中立的な質問であるのに対して、(22)では、相手が自分の提案に同意してくれるのを期待し、「同意してくれますよね」という〈確認〉の意味で使われる。

類例 **Isn't it** possible that you have left your bag in school?
かばんを学校に置いてきたという可能性はないの？

Haven't we seen this movie before?
この映画、前に観たことありませんでしたっけ。



類例 You are the tallest girl in the class, **aren't you?**

あなたのクラスの女子で一番背が高いのですよね。

You left your wallet at the fast-food restaurant, **didn't you?**

あなたはファストフード店に財布を忘れましたよね。

You haven't changed a bit, **have you?**

あなたったら、全然変わっていませんよね。

I must see Mr. Matsumoto after school, **mustn't I?**

放課後に松本先生のところに行かなくてはなりませんね。

All second graders should attend the graduation ceremony, **shouldn't they?** 2年生は全員卒業式に出席せねばなりませんね。

Well, I am your mother, aren't I? えっと、私あなたの母親よね?

I don't have to pick him up at the station, **do I?**

彼のことを駅まで迎えに行かなくていいんですよね。

【!】 little, few, hardly, scarcely, rarely, seldomなどの準否定語が使われている場合は、それに続く付加疑問は肯定の疑問形が用いられる(→ pp.421-423 準否定)。

Few people are aware of the danger, **are they?**

危機に気付いている人はほとんどいないでしょう。

コミュニケーション 付加疑問文の発音について

付加疑問文では、文末のイントネーションによって意味が異なってくるので注意しよう。

1) 上昇調(↗)で発音すると、「自分の発言にいまひとつ確信が持てない」というニュアンス。

You are from Tokyo, aren't you? (↗)

〈ひょっとすると間違っているかもしれないが〉確かにあなた、東京のご出身ではなかつたでしたっけ。

2) 下降調(↘)で発音すると、「確信があるので、確認・同意を求める」というニュアンス。

You are from Tokyo, aren't you? (↘)

〈確信はあるが念のため確認しておくと〉あなたは東京のご出身ですよね。

● What do you think of [about] ...? (32)

「…についてはどう思いますか」と意見を求めるときの定型表現 (→ p.395 【!】)。

原理

of は直接的で強い関心を、 about は漠然とした関連性を示すため、具体的な個別の内容について問うときは of、 漠然とした幅広い意見を求めるときは about が使われることが多い。

類例 **What do you think of my new hairstyle?** 私の新しい髪形、どうかしら。

What do you think of raising taxes to build a fire station?

消防署の建設のために増税することについて、どう思いますか。

What do you think about Ken? 健についてどう思いますか。

● What if ...? (33)

特に望ましくない事態などを想定して、「もし…したらどうなるだろうか」と尋ねる表現。if 節の内容の実現可能性が低いと話し手が考えている場合は、仮定法過去 (33では couldn't) を用いる。What if 以下は平叙文の語順 〈S + V〉 になる。

What if we spend [spent] our holiday in Okinawa.

休暇を沖縄で過ごしてはどうでしょう。

[if 節で仮定法過去 (この例では spent) を用いるとより控えめな提案になる]

14

● How come ...? (34)

How come ...? は元々の How does it come about that ...? を簡略化した〈くだけた〉表現で、いきさつ・経過を意識して「どうして…なのか?」と理由を尋ねるもの。Why ...? より意味が強く、驚きなどの感情も暗示する。How come 以下は平叙文の語順 〈S + V〉 になる。(→ p.388 14)

類例 **How come you know so much about American history?**

なぜアメリカ史にそんなに詳しいのですか。

How come you forgot to lock the door?

なぜドアに鍵をかけ忘れたのですか。

How come you failed to turn in the paper?

どうしてレポートを提出しなかったのですか。

疑問詞と疑問文

● Do [Would] you mind if I ...? (87)

「…してもいいですか」と相手に〈許可〉を求める表現。

内容はたいていの場合、承諾可能なもの。

Would you mind ...? の方がより丁寧な表現。

類例 **Would you mind if I sat down here?** ここに座っても構いませんでしょうか？

(if 節中は、仮定法過去か(くだけて)では現在形も用いられる。仮定法過去を用いる方が控え目な言い方で、話し手が if 節の内容の実現が難しいかも知れないという気持ちを表す)

英語の原理 答え方に注意！

Do [Would] you mind if I ...? に対して「どうぞ」と応じる際には、No, please go ahead./ No, not at all. のように No で答えるのが基本。

原理 もともと mind は「…をいやだと思う、迷惑がる」という意味なので、Yes と答えると、「嫌がっている」ことになってしまう。丁重に断る場合には、I'd rather you didn't. とする。

“Do you mind if I smoke here?” “No, go (right) ahead.”

「ここでタバコを吸ってもかまいませんか」「ええ、全く構いません」